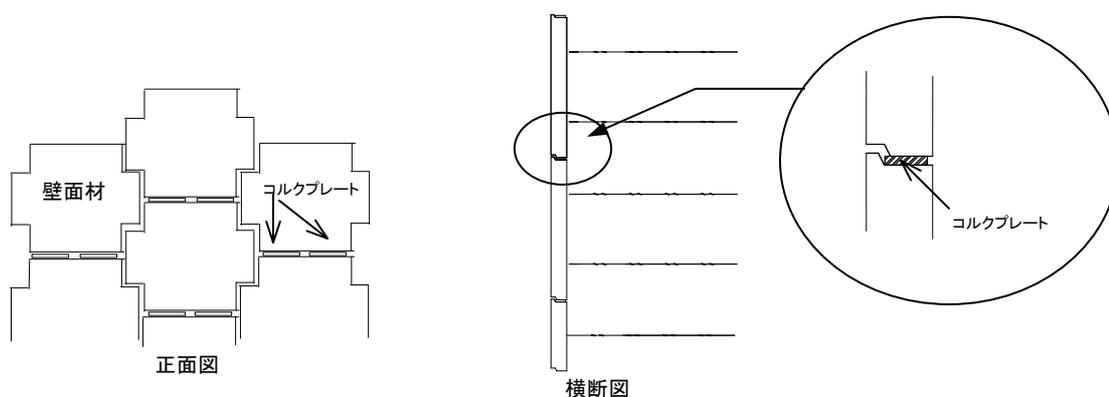


## 水平目地材(コルクプレート)について

テールアルメ工法における水平目地材(コルクプレート)は、壁面材がコンクリートスキンの場合に使用します。その目的は、補強土(テールアルメ)壁工法 設計・施工マニュアル 改訂版 平成2年5月 p52において次のように述べられています。

『…スキンパネル自体は剛なコンクリート版であるので、その水平目地部に、収縮性のあるクッション材を挿入することにより、壁面全体としては、ある程度の柔軟性を確保する目的で、使用するものである。…』



水平目地材の設置概要図

### コルクプレートの役割と耐久性

テールアルメ工法の壁面は、十字形のコンクリート製パネルを空積で積み上げる構造となっております。壁面材の上下水平目地部に設置したコルクプレートは、施工時に上下の壁面材同士の直接の接触による損傷を防ぐとともに、コルクプレート自体の圧縮によって、鉛直方向に徐々に積み上げられる壁面材の重量による圧縮変位を吸収します。また、盛土施工中から施工後盛土体が安定するまでの間、盛土体だけでなく壁面材にも微小な変位が伴いますが、コルクプレートはこの壁面に生じる微小な変位についても吸収・バランスさせる機能を有します。このように、コルクプレートは、壁面材の組立て施工時から盛土体安定までの盛土施工初期にその効果を発揮しますが、盛土体が安定した後は、地震時などの一時的な壁面変位が作用した場合に、壁面材同士の緩衝材として壁面全体にある程度の柔軟さを保持するために、分解・溶出・流出することなく存在する必要があります。

コルク自体は古くから瓶の栓などに使用されており、コルクがわずかの期間で分解・溶出したり、風化して流出する材質ではないことが知られています。また、使用しているコルクプレートの性能については、ASTM (American Society for Testing and Materials) D1752・D545(コンクリート舗装および構造建築物の伸縮目地材(コルク含む)の規格)に適合しており、土木構造物における伸縮目地の品質としては十分な性能を有しています。この中で耐候性についても、ASTM 規格での耐久性試験(沸騰水中劣化100°C/3時間、30%塩酸)で崩壊しないことを確認しているため、十分な耐候性能があるといえます。

以上